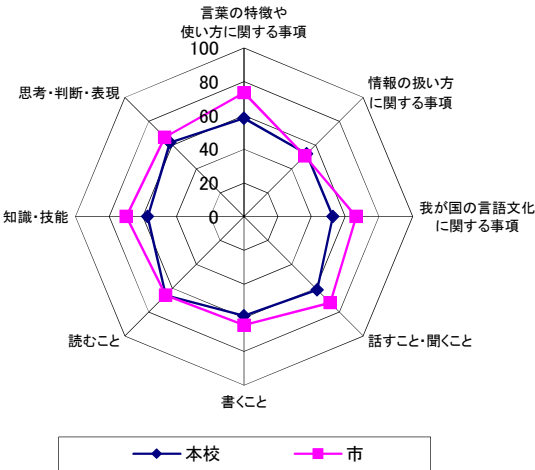


宇都宮市立城山東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	58.4	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	52.6	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	52.6	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	61.4	72.3	73.7
	書くこと	58.8	64.3	66.6
	読むこと	65.8	65.8	64.9
観点別	知識・技能	57.1	69.8	70.8
	思考・判断・表現	62.1	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

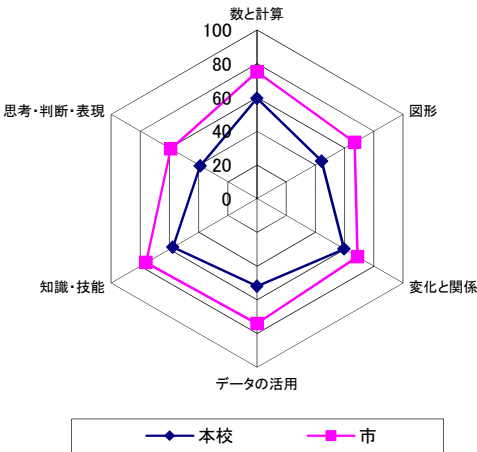
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○漢字の読み書きに関しては、市の平均と同等である。 ●文と文との接続の関係の理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文法的な内容については、課題が見られたので、朝の学習等でAIDリル等を取り入れていく。 ・熟語の成り立ちや敬語の使い方を丁寧に指導し、多くの文章に親しんだり、言語に関心をもてるような場を設けたりしていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理しているかの設問では、市の平均を大きく上回っている。1人1台端末を学習に計画的に取り入れてきた成果だと思われる。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を書くことについては、市の平均を下回っている。	・1人1台端末を計画的に学習活動に取り入れ、情報の分類の仕方を引き続き丁寧に指導していく。 ・目的に応じて、必要な情報選び、その情報をもとに文章の構成を考えたり、表現をしたりする指導を意図的に行う。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回った。 ●和語・漢語・外来語の由来について理解しているかを問う設問では、市の平均を下回っており、課題が見られる。	・和語、漢語、外来語については、学習中に漢字辞典や国語辞典の活用あを意図的に取り入れ、読み書きだけでなく、意味を正しく理解できるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○話の中心を捉え、意図に応じて質問を工夫する設問では、市の平均と同等であった。 ●自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える設問では、市の平均を大きく下回っていた。	・「考えときのヒント(比べる、つなげる、分類する、等)」や「みんなで学び合い伝え合おう」の教室掲示を活用し、丁寧に指導する。 ・話し手の意図を正しく聞き取れるように、適切なメモの取り方を指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○文章を書く設問では、市の平均と同等か上回った。 ●目的や意図に応じて、書き表し方を工夫しているか、情報と情報との関係について理解し目的に応じて文章を書く設問では、市の平均を大きく下回っている。特に、記述式の設問について課題が見られる。	・学年の発達状況に応じた作文指導を効果的に取り入れることで、書くことへの苦手意識を減らしていく。 ・授業の振り返りの時間を有効に利用し、書くことを習慣化していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○物語文・説明文ともに、正答率が市の平均と同等であった。特に、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することについては、市の平均を大きく上回った。	・物語文や説明文の学習では、文章の全体の構成と段落ごとの要旨から文章全体の構成を捉えることができるよう丁寧に指導し、理解の定着を図る。 ・読書活動の充実を今後も図っていく。図書館だよりや、長期休暇中の家読などを利用して、読書の大切さについて家庭に発信していく。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	59.5	75.1	75.8
	図形	44.2	66.8	68.3
	変化と関係	59.6	68.8	65.0
	データの活用	51.9	74.1	63.6
観点別	知識・技能	57.7	76.1	75.8
	思考・判断・表現	38.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

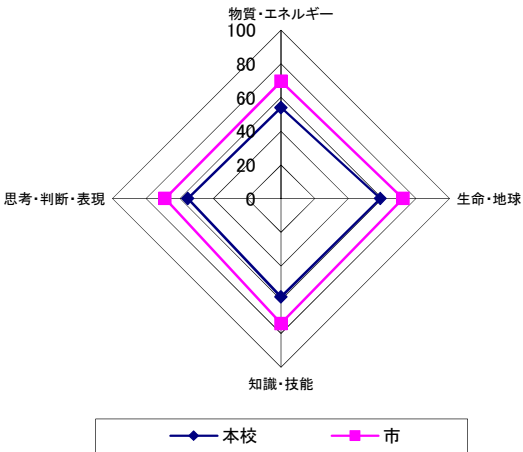
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○小数×小数の計算をすることができる。 ○文章問題において、小数の除法の立式をすることができる。 ●分数の加法をするための通分に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数や分数の計算では、計算方法やなぜその式になるのかの理由が説明できるよう、授業中の活動に計画的に取り組むようにする。 ・朝の学習や宿題において、基本的な計算に取り組む機会を設定して、定着を図る。
図形	平均正答率は、市の平均を大きく下回った。 ○展開図から、見取り図の辺の長さを読み取ることができる。 ●四角柱の体積を求めることに課題が見られる。 ●図形の作り方について理解し、その方法で作ることができるかどうかを記述することに課題が見られる。	・面積や体積の求め方について復習して反復練習に取り組み、定着を図る。 ・図形の性質について、面や辺、角に着目して説明する活動を通して、理解を深めることができるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○速さと道のりから、時間を求めることができる。 ●割合について、基準量と比較量の関係についての理解が不十分である。	・割合、基準量、比較量の関係について復習し、問題の文脈に沿って読み取ったり、説明したりすることができるように、授業の中で復習を取り入れ定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均を大きく下回った。 ●データを読み取り、中央値や最頻値を求めることに課題が見られる。 ●問題場面を把握し、平均から合計の数を求める方法を記述することに課題が見られる。	・データの活用において、平均値や最頻値、中央値などの代表値について復習したり、問題場面においてそれらを読み取ったりする活動を、授業の中で取り入れる。 ・立式するだけでなく、なぜその式が立てられるのかを自分の言葉で記述することができるよう、一斉指導に加え個に応じた指導の充実を図る。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	54.0	69.5	65.2
	生命・地球	58.9	72.3	70.1
観点別	知識・技能	58.3	74.0	70.7
	思考・判断・表現	55.3	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

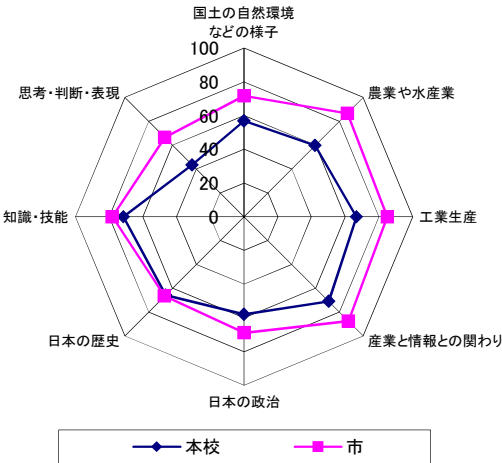
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○金属がうすい塩酸に溶けることについて、正しい結果を選ぶことができる。 ●実験における条件制御の誤りを指摘することについて、正しい条件について文章で説明することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験前に予想したことをもとに結果を比較し、考察する活動を繰り返し行うことで、理解を図っていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○流れる水の量が増えたときに、流れる水の速さが速くなることを正しく理解している。 ●動物の体のつくりとはたらきについての理解が不十分である。	・食べ物が消化される過程について、図書資料や1人1台端末を活用した調べ学習を設け、調べたことを絵や図でまとめることで、知識を深めることができるようにしていく。 ・各器官の役割やはたらきについて、生活と結びつけて考察する活動を設け、イメージできるようにしていく。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	56.8	71.6	69.6
	農業や水産業	59.6	86.7	83.7
	工業生産	66.7	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	71.1	87.7	77.4
	日本の政治	57.9	68.9	71.7
	日本の歴史	65.8	66.7	66.3
観点別	知識・技能	71.5	78.0	76.7
	思考・判断・表現	43.4	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均を下回った。 ○日本の周辺の海洋名について理解できている。 ●世界の国々の位置や国旗の理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・世界地図や日本地図などの資料を活用し、国土の位置や気候等とも関連付けて学び、理解を深められるようにしていく。 ・日本とつながりのある諸国との関係についても、その都度場所を確認するなど、自ら資料を活用していく学び方を身に付けるようにしていく。
農業や水産業	平均正答率は市の平均を下回った。 ●米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料を判断することに課題が見られる。 ●水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断することに課題が見られる。	・日本の経済を支える産業について、産地の場所や収穫量を資料を確認しながら視覚的に捉えるなどして、理解を深めることができるようにする。 ・資料の写真やグラフなどを比べ、資料から読み取れたことを話し合ったり表現したりする活動を多く取り入れ、理解を深めることができるようにする。
工業生産	平均正答率は市の平均を下回った。 ○工業製品の分類について理解している。 ●日本の工業の特色について、資料をもとに表現することに課題が見られる。	・工場の立地や交通網の広がり、また諸外国との関わりなどに着目し、輸出・輸入の割合とも関連付けながら、日本の工業生産の現状について捉えられるようにしていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は市の平均を下回った。 ○様々なメディアの特徴について理解している。 ●情報の発信と受信の注意点について考えることに課題が見られる。 ●沖縄県での自然環境を守る取組について考えることに課題が見られる。	・身の回りのメディアの活用方法を理解させるとともに、活用するうえでの注意点にも目を向け、自分の生活と結び付けて考えられるようにしていく。
日本の政治	平均正答率は市の平均を下回った。 ○国民の義務について理解できている。 ●内閣の働きや国民と国会と内閣の関わりについての理解に課題が見られる。	・国会・内閣・裁判所への国民の役割について復習したり、実際のニュースなどを取り上げて政治への関心を高めたりして、日本の政治の仕組みや在り方について考えられるようにしていく。
日本の歴史	平均正答率は市の平均と同等だった。 ○大王について理解できている。 ○江戸幕府の鎖国の窓口について理解できている。 ●元との戦いについての理解をもとに、防塁について表現することに課題が見られる。	・年表や資料をもとに、気付いたことを話し合う機会を多く取り入れ、その時代の様子を、詳しく読み取れるようにしていく。

宇都宮市立城山東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	全ての学年で、「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算)」を計画的に実施している。 漢字・計算くり返し練習を取り入れた、意図的な家庭学習の設定を行っている。 朝の学習(国語・算数における基礎基本の繰り返し学習)を実施している。	国語・社会・算数・理科において、正答率が市の平均を下回っており、基礎基本の定着に課題が見られる。
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	学び合い活動を意図的に取り入れる。(「考えるときのヒント」の掲示物の活用) 自分の思考イメージを外化(絵・図、言葉、計算式、ロールプレイ、具体物等)をしてから話し合う、学習過程を工夫し指導している。 ペアや少人数、グループ、全体等での協働的な学び合い形態を工夫している。 発達段階に応じた話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料を活用している。	国語・社会・算数・理科の記述式設問では、無回答の割合が市の平均に比べて高い。「自分の考えをもつ」「自分の考えを述べる」「自分の考えを書く」ことに課題が見られる。 国語では、「読むこと」以外の領域において平均正答率は、市の平均を下回った。自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える設問では、市の平均を大きく下回っていた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・4～6年生は、国・県・市の調査ともに、記述式設問の正答率が市の平均を大きく下回っており、無回答率が高く、「自分の考えをもつ」「自分の考えを表現する」ことに課題が見られる。朝の学習の国語で、発達段階に応じた視写や言葉の学習に加え、自分の考えをノートに書いたり、自分の考えを分かりやすく表現する力を身に付けるための指導を重視していく。
- ・調査対象となった全教科において、正答率が市の平均を下回る傾向が見られ、基礎基本の定着が課題である。今年度の取り組みを踏まえ、既習内容の確実な定着を図るために、国語の漢字・算数の計算に重点を置いた復習や練習問題、ICT(AIDリル)を活用した学習を繰り返し行うことで、学習に対する意欲を高め、基礎基本の定着を図る。
- ・学年が上がるにつれ、スマートフォンやインターネットの所持率が高くなり、それに比例してデジタル機器に触れる時間の長さが目立ち、家庭学習や睡眠時間の短さにつながっていると考えられる。情報モラル教育と合わせて、家庭学習(自主学習)の取り組む指導を充実させたい。